

市指定文化財



1. 下真木諏訪神社本殿（建造物）

一間社流造り、千鳥唐破風つき入母屋造りの本殿で、現存する宮普請請負証文より文政10（1827）年に現在の本殿が建てられたことが分かっています。

板壁外面には彫刻があり、華やかで装飾的です。



2. 大倉山諏訪神社本殿（建造物）

一間社流造りの神社建築で、板壁外面に見事な彫刻が施されています。

本殿をはじめ、社殿は文政年間に修復されたもので、この修復費用を捻出するために村の総寄合で定めた議定書が残されています。



3. 宝鏡寺仁王門（建造物）

桁方向に4本、梁方向に3本の合計12本の柱に支えられ、中央の柱間を通路とし、その両脇には仁王像が安置されています。

仁王門両側面の棟を支える束は胴張の特徴的な形をしています。

市内では唯一の仁王を伴う仁王門として非常に貴重な建造物です。



4. 紙本淡彩観音十六羅漢図（絵画）

縦 136 cm、横 112 cm で、観音を中心に寒山、拾得、豊千、布袋などの十六羅漢が描かれている。背景は笹子町宝林寺の後庭と笹子嶺とされています。

江戸時代、駿河国の松蔭寺に住し、多数の優れた絵画を残した禅傑白隠の62歳の時の作品です。



5. 紙本墨画出山釈迦像（絵画）

白隠の作として伝えられ、『白隠年譜』の延享2年の項に、「師六一才春二月甲の自得の維摩会の請に赴く、一衆三百余云々」とあり、本作品はその席上で描かれたものであると伝えられています。



6. 絹本着色釈迦三尊十六善神像（絵画）

大般若経読誦の際に使用されたもので神仏習合により春日神社に奉納されたと推定されています。

画面には23体の神仏像が描かれており、現状では確認することができませんが、『甲斐国志』には天文8（1539）年の裏書があったと記されています。



7. 木造薬師如来立像（彫刻）

宝鏡寺の本尊で、像高 116 cm、ヒノキ材の一木造りで、頭髮の形状が特徴的です。中世末期頃の作と推定され、端麗な顔立ちと衣文の襞の表現などから、市内に現存する木造仏のなかでも優美なものとして評価されています。



8. 浅川の不動尊像（彫刻）

像高 52 cm、ヒノキ材の寄木造りで、肘と腕に釧、右手に宝剣、左手に羂索を持っています。

像の表面は胡粉地に着色しており、像の内側には享禄 5（1532）年の銘が確認できます。市内に残る彫刻の中では制作年が判然とした貴重な資料です。



9. 宝鏡寺十二神将立像（彫刻）

像高は 69.2～71.6 cmで、作風より鎌倉時代頃と推定されています。12 軀そろって現存しているのは県内でも珍しく、貴重な資料です。



10. 宝鏡寺木造馬頭観音立像（彫刻）

像高 72.1 cm の木造の馬頭観音で、南北朝期の作風を備えています。木造の馬頭観音像は市内では珍しく、貴重な資料です。



11. 宝鏡寺仁王像（彫刻）

木造で、阿形像は像高 200 cm、吽形像は 196 cm あり、両方とも赤く彩色されています。制作された年代は明らかではありませんが、市内では仁王門をもつ仁王像として非常に貴重な資料です。



12. 刀 銘 安綱（工芸品）

刃長 61.1 cm、反り 2.3 cm、身幅は鉦元で 3.2 cm、横手で 2.1 cm、銘は「安綱」と刻まれています。刀の保存状態も良く、元禄 7（1694）年の本阿弥家の折紙が付いており、貴重な資料になっています。



1 3. 火縄銃 銘 國安 (工芸品)

全長 121.0 cm、銃身長 95.5 cm、口径 1.1 cmで、火皿は嵌入れ法で装着する型の火縄銃です。

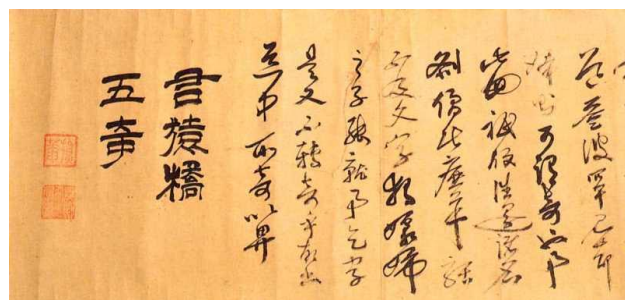
甲州銃と呼ばれる甲斐国内で制作された銃で、「真巻 甲斐國住 國友平八國安作 享和三年八月 日」の刻銘が確認できます。



1 4. 火縄銃 銘 國安 (工芸品)

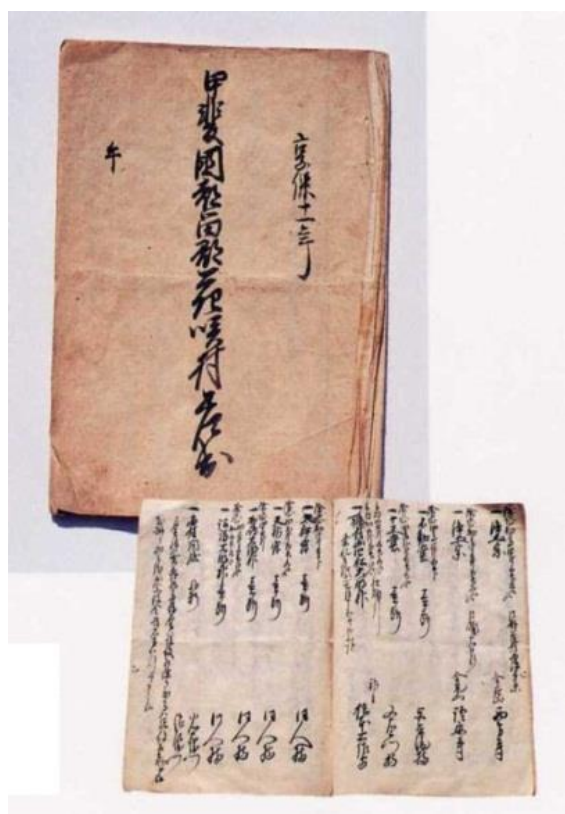
全長 130.3 cm、銃身長 101.5 cm、口径 1.4 cmで、火皿は鍛接（湧付）法で装着する型の火縄銃です。

「鳥沢舎國安作」の刻銘が確認できます。



1 6. 紙本墨書猿橋五奇 (書跡)

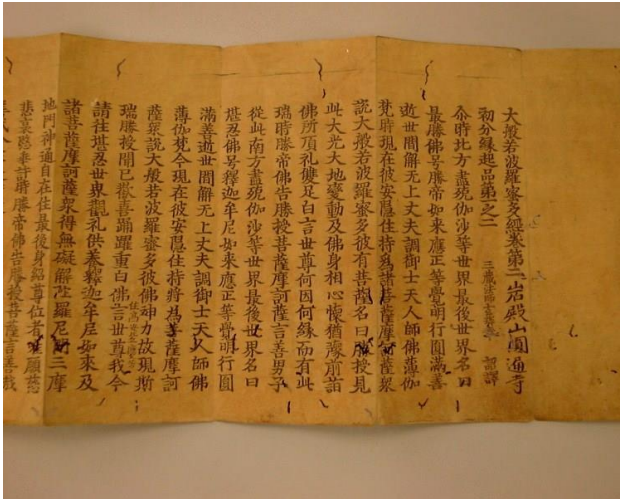
宝永 3 (1706) 年に甲府—江戸間を往復した荻生徂徠が猿橋宿に立ち寄った際、猿橋およびその付近の珍奇なことを5つあげて記したものです。



1 7. 星野家文書 (書跡)

星野家は下花咲宿の本陣として名主、問屋を務めた旧家で多くの古文書を所蔵しています。

現存の古文書は 17 世紀中頃から 20 世紀初頭までのもので、総数は 2 万点を越える県下でも有数の地方、村方文書です。



18. 摺本大般若波羅蜜多經（典籍）

全 600 巻中 535 巻が現存している摺本の大般若経で、「甲斐国鶴郡岩殿山円通寺 勸進聖順翁有迪知客 応永六年巳卯月日」と墨書されていることから、1399 年に円通寺ならびに七社権現に納進されたものであることが分かります。



19. 宮谷金山古墳出土品

宮谷金山古墳は、現在消滅してしまっその姿を確認することはできませんが、副葬されていた鉄鏃 13、刀子 1、勾玉 1 が残されています。出土品は大月市域のみならず郡内地域における古墳時代文化を伝える貴重な資料となっています。



20. 鳥沢金山古墳出土品

鳥沢金山古墳も、現在消滅してしまっその姿を確認することはできませんが、副葬されていた鉄鏃 8、直刀 1、鏢 1 が残されています。出土品は大月市域のみならず郡内地域における古墳時代文化を伝える貴重な資料となっています。



21. 殿上三嶋神社薬師如来鏡像（歴史資料）

銅製で、元々は縦 23 cm、横 24 cm、厚さ 0.15 cm の円形鏡板を一鑄として造られた懸仏でしたが、過去に盗難にあい、薬師如来部分を失い、切断されてしまっています。

しかし、刻まれた文字から応永 19 (1412) 年に奉懸されたものであることは明らかで、歴史的な資料価値は高いです。

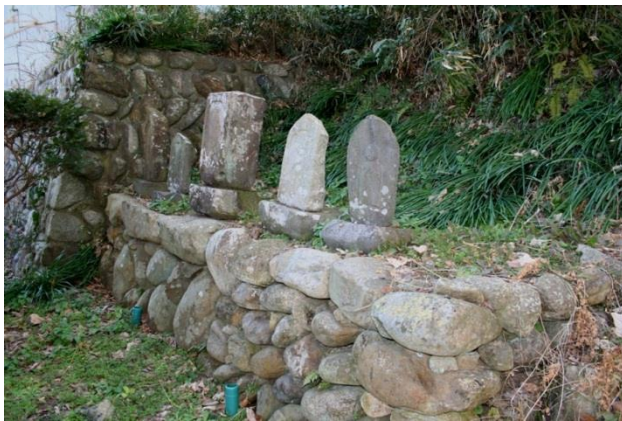




2 2. 森武七墓碑（歴史資料）

森武七は天保 7（1836）年、郡内の農民により端を発し、甲斐一国規模の農民一揆となった天保騒動の中心的人物です。

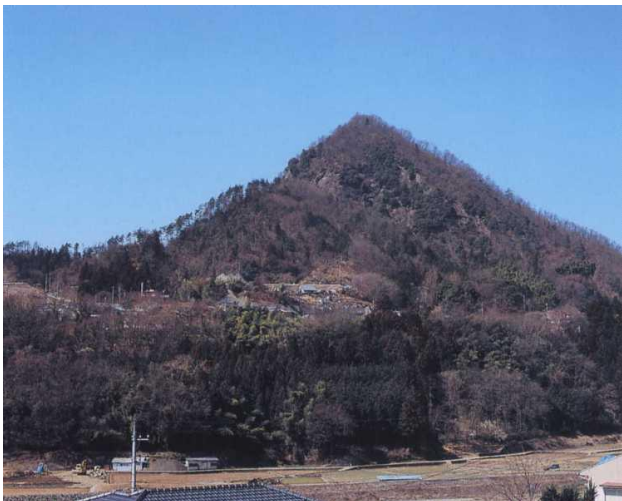
墓石は、高さ 95 cm、幅 65 cm、厚さ 35 cm の自然石で、「的翁了端信士 天保七申十一月十六日」と彫られています。



2 3. 森武七の墓（史跡）

中央高速自動車道の 6 車線化に伴い移設された森武七墓碑があった場所です。

武七は打ちこわしなどを禁じる方針で農民を率いましたが、やがて人数が増えて暴徒と化し指揮が取れなくなってしまい、途中で引き返してしまいます。武七は一揆鎮圧後に出頭し石和牢舎で牢死します。



2 4. 円通寺跡（史跡）

創建がいつであるのか明らかではありませんが、『峡中家歴鑑』には承平年間建立と記されていることから 10 世紀初めの成立と考えられます。

天台宗聖護院本山派の寺院として、武田氏、小山田氏の保護もと、繁栄しましたが、両氏の滅亡により衰退し、明治 5（1872）年の修験廃止の布告により廃寺となりました。



25. 聖護院道興歌碑（史跡）

道興は、本山派修験宗（山伏）の総本山である聖護院の大僧正で、全国を行脚して、その様子を『廻国雑記』に記しています。

この歌は、文明 19（1487）年に初狩を通過するときに、帰雁が鳴くのを聞いて詠んだもので、

「今はとてかすみを分けてかへるさにおぼつかなしやはつかりの里」とあります。



26. 鎌田氏館跡（史跡）

建暦 3（1213）年、侍所の和田義盛が鎌倉幕府に対して反乱を起こした和田合戦において、反乱の鎮圧に功績を立てた鎌田兵衛尉が館を構えた場所です。『東鑑』によると、鎌田氏は福地郷を受給したと記されています。

この館跡には「堀之内」という地名が残っており、『甲斐国志』には「馬洗場」「的場」などの地名も残されていたと記されています。



27. 一里塚跡（史跡）

甲州街道沿いに一里（約 4 km）ごとに設置された塚の一つで、この一里塚は下花咲宿の入り口付近にありました。

現在道路工事や鉄道工事により当時の面影がほとんどありませんが、古い絵図等から、この場所に一里塚があったことが分かっています。



28. 宮谷白山遺跡（史跡）

宮谷白山遺跡は昭和47年に発掘調査が行われた遺跡で、調査によって縄文時代中期の竪穴住居跡が一軒確認され、住居内からは縄文土器が発見されました。

発掘調査団は外部から3人の専門家を招き、大月市民で組織して調査を行いました。

現在竪穴住居跡が発見された場所には住居の上屋が復元されており、周辺が史跡公園として整備されています。



29. 子の神古墳（史跡）

7世紀に造られたと推定されている横穴式石室をもつ小型の円墳です。

昭和49年に行われた発掘調査の結果、直刀一口、須恵器、鉄鏃、刀子、人間の臼歯などが確認されています。

大月市内で唯一墳丘の残されている古墳として非常に貴重です。



30. 藤沢の大スギ（天然記念物）

樹高45m、根廻り11.45m、地上から40cmの幹根境界部の周囲は9.15m、目通幹囲6.3m、枝下5mで北面は上部まで枝がなく直立しています。

樹勢は旺盛で、スギの巨樹としては市内稀にみるものです。



3 1. 浅利の千本マツ（天然記念物）

樹種はアカマツの品種のウツクシマツで、幹は根元近くから箒状に立ち樹冠は傘状になっています。

樹高約 13m、根廻り 2.8m、高地上 0.5m の幹囲 2.22m で、幹は七支幹に分岐し、さらにその上で20 数本に分かれ特殊な樹形をしています。

県下でも珍しい種類である上、かなりの巨木であり学術的な価値が高いです。



3 2. 小和田のサクラ（天然記念物）

樹種はエドヒガンで、樹高約 10m、根元の周囲 6.95m、目通幹囲 4.3m あります。幹は東北に約 60 度傾き、約 12m のあたりで朽ちていますが、根元に近い三本の枝が主幹のように勢いよく立ち上がっています。

市内におけるサクラの巨樹として代表的なものになっています。



3 3. 寛城のカエデ（天然記念物）

樹種はイロハカエデで、別名タカオモミジというカエデの代表種です。根元の周囲 3.3m、目通幹囲 2.9m、枝下約 2m、幹は右巻きに捻れて伸びています。枝を東西約 15m、南北に約 9m 張り出し、樹冠は球形をしています。

イロハカエデの巨樹として市内最大のものです。



34. 堀ノ内の大ケヤキ（天然記念物）

樹高約 35m、根廻り 19m、幹根境の周囲 10.6m、それより 1.5m 上の目通幹囲 8.0m、地上 5m で二幹に分かれて枝を張り出しています。

樹勢は旺盛で、ケヤキの巨樹として市内でも屈指のものです。



35. 小篠のイトヒバ（天然記念物）

樹種はイトヒバで、ヒヨクヒバとも呼ばれるヒノキ科のサワラの変種です。樹高約 18m、目通幹囲 3.8m で、地上より 3m で分岐しています。

主に庭園や公園に植栽されてきた庭園樹で、周囲の石仏群や墓地の存在などから、かつてこの付近に寺院があり、境内に植えられていたものだったのではないかと推測されています。

イトヒバとしては県内一の巨樹であり、昔の庭園樹の生きた標本として貴重です。



36. 無辺寺のトチノキ (天然記念物)

樹高約 22m、根元の周囲 4.5m、目通幹囲 4.3m、枝下 1.5m で幹にはトチノキ特有の渦巻き文様が見られます。

樹勢は旺盛で、枝葉もよく繁茂し、豊富に実をつけます。

市内最大のトチノキの巨樹です。



36. 鳥沢のコノテガシワ (天然記念物)

樹高約 12m、根元の周囲 1.9m、地上 1.1m の幹囲 3.2m、その上で数支幹に分岐しています。

コノテガシワは中国原産の常緑針葉高木で、日本では社寺、庭園などに植えられています。

コノテガシワの巨樹として市内で代表的なものです。